

ニホンカモシカの“なつ”の死亡原因と対策について

8月11日に当園で誕生したニホンカモシカの“なつ”が、10月12日に死亡しました。

死亡までの経過ですが、10月11日14時ごろ、お客様から「“なつ”が木に挟まっている」という連絡を受け、飼育担当が救出し、その後すぐに動物病院で獣医が治療を開始しました。救出時の状況から、木に挟まっていたのではなく、具合が悪く動けない状態だった事が分かりました。治療を開始した時点で“なつ”の状態は思わしくなく、点滴治療を開始した後も自力で立てない状態が続きました。また診察の結果、やせていて栄養状態が悪くないことが分かりました。

治療を始めてから数時間後には治療の効果が見えはじめ、“なつ”は自力で立ち、ごはんを食べたり頭突きをしてきたりするなど、回復の兆しが見えていました。しかし、翌朝になり再び容態は悪化し10月12日午前10時15分に死亡しました。

解剖の結果、死因は肺炎であることが分かりました。肺炎になった背景には栄養状態の悪化が考えられました。また、病理組織検査を外部機関に依頼し、より詳しい状況を調べています。さらに、翌日に判明した血液検査の結果では、軽度ですが貧血などの異常があったことも分かりました。

これらの結果を受け、現在の飼育担当や獣医、これまでニホンカモシカを担当した職員を中心に、飼育方法や飼育環境、健康管理に問題がなかったか、今後どのような対策を行うかについて話し合いを行いました。その結果、与えるごはんの内容や、特に仔の健康状態の観察方法について改善点が見えてきました。現在、“なつ”の親である“くらら”と“ぱっくん”について、見直しを行った結果を実行しています。

ただし、“くらら”と“ぱっくん”については、現在も便状が不安定な時が見られますので、今後の飼育に役立つよう飼育担当を中心に再度話し合いの場を設け飼育方法の改善を目指していきます。このことは後日まとめて経過とともにお知らせします。

今回、“なつ”の異常を見抜けず死亡に至ったことに関して、職員一同残念な思いであり、また、今後の成長を楽しみにして下さっていた皆様にも大変申し訳ない気持ちです。

今後、動物たちが健康でより良い環境で過ごせるよう、これまで以上に努力をして参ります。